

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表			
事業所名	てらびあぱけっと西川口五丁目教室		
公表日	2026年	2月	20日
利用児童数	34	回収数	22

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22				・広々としていて確保されていると思う	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	1		4	・いつもこどもをしっかりとみて下さっていると思う	12月から常勤の職員が1名入職いたしました。細かいところに目を配り、丁寧な支援を行っていきたいと思います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構成化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2		3		お子様用トイレの段差が少し高いので、小さなお子様が使用する際には、転倒しないよう気を付けて対応しております。また、落ち着いて過ごせるよう視覚的な刺激を減らしたり、認識しやすい活動空間とするための環境設定を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21			1		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1			・やることが難しい動作をただ反復練習をさせるのではなく、様々な視点からアプローチをして遊びながら習得できるように、工夫してくださっている。	現在、教室には言語聴覚士や作業療法士などの専門職員はおりませんが、状況に応じ、本部のスーパーバイザーと連携し、支援を行ってまいります。お困りごとやご相談がありましたら、ぜひお聞かせください。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22				・具体的に目標設定がされていて今の子供の状態を理解されていると思う。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18			4		計画作成の際には説明をさせていただいておりますが、耳慣れない専門用語で、実際の支援内容と結びつきにくい表現もあるかと思います。不明点などをご説明させていただきますので、遠慮なくご質問ください。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	2		2	・時々集団での活動をメインにやってくださっていて、子どもにも良い刺激となっている。	課題の習得はスモールステップで、複数の職員の間を経て達成を図るため、同じプログラムばかりと感じるかもしれません。次のステップに進むためには、確実な土台の上に積み上げていく必要があるため、定着するまで時間をかけて取り組むものもあります。疑問や不明点などは、遠慮なくご質問ください。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	10		6	6	・幼稚園や習い事で機会がある ・他のこどもと活動経験はまだないため	教室の特性上、他の施設のお子様との活動・交流は難しいため、対象外の質問項目となります。
保護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	1	3	1		ご契約時には非常に多くの説明事項があり、お伝えするのに十分な時間が設けられず、誠に申し訳ございません。不明点などは改めてご説明させていただきますので、お申し付けください。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	5	1	1	・家庭支援プログラムや研修会に参加したことがない	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	22				・話しやすい雰囲気なのでこちらからも成長したことや不安なことなど何でも話せ一緒に成長を喜んでもらえています。 ・帰りのフィードバックで活動様子を伝えてもらっているので理解できている	ご家庭での様子、睡眠や健康状態、園での様子や園行事のことなど、私どもも把握したい情報がございますので、ぜひ共有させてください。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20			2	・帰りのフィードバックで助言していた	お困りごとや不安なこと、どんな内容でも結構ですので、お気軽に相談ください。

	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	8	4	7	・まだ参加したことがない	9月より、祝日に保護者会を開催して参りましたが、広く皆様にご参加いただけるよう、開催日時やお話したいテーマなどのご要望アンケートを実施したいと思います。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	18			3	・お便りやSNSなどで活動内容を把握している	インスタグラム、事業所新聞などで活動内容の情報発信、教室からのご連絡事項などの発信を行っております。自己評価などの業務に関する報告書は、都度閲覧先を開示して参ります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17			5	・新聞等では訓練を読んだことはあるが、実際には訓練に参加をしていない。	まだ未参加お子様が訓練に参加できるよう、実施日程の調整を行ってまいります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1		5		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	22					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	22				・毎日通所を楽しみにしています！	
	29	事業所の支援に満足していますか。	22				・先生たちがとても温かく迎えてくれて、いつも楽しく通わせてもらっています。 ・先生やお友達と交流しながらいろいろな学べているので本人は満足しているようです。	

事業所における自己評価結果						
公表						
事業所名		てらびあばけっと西川口五丁目教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	必要に応じ、ピアセラピーやソーシャルセラピーを取り入れ、』利用者 者に配慮した職員の配置を心掛けています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		お子様用トイレが床面から一段高くなっているため、小さいお子様や自立で移動が難しいお子様が利用する際は、必ず手つなぎで上り下りするなど、気を付けて対応しております。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2	2		PDCAとは?という所からの認識、また目先の支援だけでなく、半年後・1年後を見据えた支援の進め方を職員が知ることができると良い。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		アンケートの集計後に職員ミーティングを行い、保護者様のご意見・ニーズの把握、改善のための意見交換を行っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員面談の実施、ならびに毎日の終礼にて、意見交換の機会を設けています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	実地指導や、本部スーパーバイザーによる指導を受けています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		法人内のオンライン講座、本部SVによる解説動画などの情報提供が定期的であり、資質向上を図っている。	職員皆が、公平に希望する講座を受けられるよう、シフトの調整や教室内のルールを設けたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		児童発達支援計画は原案段階で全職員によるケースカンファレンスを行い、意見交換した後、修正し作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		保護者様との面談内容、ニーズや課題を全職員と共有し、計画内容に関する意見交換の場を設けています。	ケースカンファなどで説明・理解を促しているが、時間経過とともに「子どもの最善の利益・希望」などが置き去りになってしまうことがあるので、適時情報共有が必要。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		児童発達支援計画は、作成時に全職員に周知・共有し、お子様のセラピー・支援に反映しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		社会性、知的発達、運動面など、お子様の様々な発達状況をアセスメントし、フォーマルな検査表の発達段階を参照しながら、お子様の次のステップ（目標）を設定しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	2		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		定期的なケースカンファレンスや、必要に応じ新たなプログラムの導入について話し合っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		終礼などで、セラピーの内容・お子様の状況を共有し、プログラム内容や優先事項の見直し、立案を行っています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	3	ピアセラピーなど複数名で関わるセラピーの際など、必要に応じて、役割分担や支援内容における目標の設定・留意点の確認を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		終礼で実施しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		4		サービス担当者会議などの機会がほとんどありませんが（R6年度に1件）、ある場合には必ず参加しています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2		連携の有る無しが、園によって頻度など偏りがあるため、様々な園で幅広く連携ができると良いと思っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	保護者様のご要望があった際に、支援内容等の情報共有シートを作成しています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2	さいたま発達障害総合支援センターの出張指導に申し込み、作業療法士によるセラピーへの指導・助言を受けています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4	事業所の特性上、交流の機会がありません。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡ノートでの伝達や、セラピー後（お迎え時）のフィードバックの際に情報共有を行っています。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		教室ではペアレントトレーニングを実施していませんが、ご家族が参加・視聴できる外部研修の案内を掲示しています。	気になるテーマなどを募集し、保護者様向けの勉強会などの機会を設けたいと思います。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		座談会を開催し、保護者様同士が気軽にお話ができるよう、交流の機会を設けています。	保護者会（座談会）を実施していますが、兄弟児も来所して交流できる機会を検討したいと思います。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		連絡ノートに記載された特記事項、面談やフィードバックの際にお聞きしたご相談・ご意見は終礼時に共有し、迅速な対応を心掛けるとともに、保護者様へのご説明やご報告を行っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		事業所新聞の発行や、InstagramなどSNSで、日々の教室の様子・活動内容を発信しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		教室の特性上、地域住民の方との交流は難しいのですが、必要が生じた際には見学会の開催などを検討したいと思います。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	職員間で、訓練マニュアルの読み合わせを行い、不審者対応訓練、嘔吐物処理や鼻血の止血の訓練等を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		毎年、年二回の避難訓練を実施しています。	訓練により多くのお子様が参加できるよう、機会を設けていきたいと思っています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		契約時と、支援計画更新の際の面談で伺っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		4	食事の提供の機会はありません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	1	ヒヤリハットが起こった日の終礼で共有し、再発防止について意見交換をし、記録に残しています。	当日に出勤していなかった職員にも、ヒヤリハットがあった件を口頭で伝達し、入職以前に起こったヒヤリハットの記録も閲覧し、同じような事が起きないように周知したいと思います。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1	3	身体拘束適正化研修を行い、職員に周知しています。また、身体拘束について計画には記載していませんが、契約時に説明し書面で提示しています。	

事業所における自己評価総括表			
公表			
○事業所名	てらびあぽけっと西川口五丁目教室		
○保護者評価実施期間	令和7年10月 25日 ～ 令和7 年 11月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年12 月 8日 ～ 令和7年12月 18日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月26 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様が教室に来ることを楽しみにしており、保護者様も安心感を持って通ってくださっている。	お迎え時のフィードバックで、嬉しい変化やその日の様子の具体的なエピソード、気付いたことなど、丁寧にお伝えすることを心掛けている。また、園やご家庭での近況やお困りごとに耳を傾けて、お子様への支援・セラピーに反映している。	座談会の開催やセラピー見学などを通じ、教室の中へ足を運んでいただくことで、日々の様子・雰囲気を感じ、もっと信頼を深めていただけるような、開かれた教室を目指したい。保護者様同士の交流も図り、情報共有の場、気軽に相談できる家族支援の場として、利用の幅を広げていきたい。
2	全職員が支援計画の作成に関わり、ケースカンファレンスでニーズや課題の検討を行っている。お子様の最善の利益を考慮した児童発達支援計画を作成し、日々の支援に反映している。	セラピーの中での小さな変化・達成状況から、支援内容の段階がお子様の発達状況に応じたものとなっているか、また実際の生活における優先度を判断し、柔軟に支援内容を修正している。	本部SVによる実地指導や、様々なアセスメントツールを用いて、多方面から発達・適応行動の状況を捉えるなど、広い視野での支援を考えていく。
3	職員がお子様との関わりを心から楽しみ、支援に真剣に向き合っている点。お子様の変化や保護者様からお聞きした小さな情報など、支援のヒントとなるものにアンテナを張り、職員間で共有している。	日々、気になった点や気付きは終礼で共有し、次回以降のセラピーで対応できるよう、意見交換や支援方法の統一を図っている。また、セラピーや支援の質の向上のため、社内のオンライン講座や外部研修に参加し、必要なスキルや知識の習得を図っている。	全ての職員が公平に、研修等への参加機会を増やせるよう、効率的な職員配置・業務の分担を図る。また、社内勉強会を開き、経験の浅い職員には身近な事例を用いて、実践に近い学びの機会を作る。
	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	作業療法士や言語聴覚士などの専門職員がいない。	発語や手先の不器用さなどのお困りごとでご利用される方は大勢いらっしゃるが、口腔器官の発達や疾患に起因するものでなければ、保育士や児童指導員による支援で対応が可能であると考えている。	必要に応じ、本部SVの言語聴覚士に相談し助言を得ている。また、社内オンライン講座や外部の研修会への参加など、職員の質の向上を図ると共に、本部SVの実地指導を受け、より専門的な支援を提供できるよう研鑽を積んでいく。
2	幼稚園・保育園、相談支援事業所などの、地域の関係機関との連携が少ない。	お子様の通う幼稚園・保育園との支援内容などの情報共有は、ご要望のあった家庭のみの実施となっている。相談支援事業所との連携も、支援計画更新時のモニタリング時に情報共有するに留まり、地域の関係機関における認知が十分でないと感じる。	利用者の方々に、関係機関連携などを周知し、園と様々な情報の共有・連携する機会を増やす。また、相談があった際に、声をかけていただけるような事業所となれるよう、定期的な訪問や事業所新聞・SNSによる情報発信などで教室の認知向上を図る。
3	しばしば保護者様から寄せられるニーズの「送迎」「長い預かり時間の療育」「放課後等デイサービス」は行っていない。支援内容よりも利便性を重視され、他事業所に移ってしまう・利用日が減るなどして、一步一步進めてきた療育の歩みが止まってしまう。	送迎を行っていないのは、その日の支援内容や、園やご家庭での様子など保護者様と直接お話しする時間を大事にしたいという思いもある。また、「2時間のセラピー」は個別支援でお子様が集中して取り組むための時間の為、今後も変わるものではない。	教室の特徴でもある「ひとつひとつ積み重ねていく療育」の意味を丁寧に説明し、日々のセラピーのフィードバックでも、お子様の変化や成長を、具体的な説明をもって伝えていく。また、相談会の開催など、保護者様にも寄り添った支援を行い、通ってよかったと思っていただけるような教室を目指す。